

2021年度 森林総合研究所 公開講演会

伝えたい！森の中の放射性セシウム

～10年で明らかになったこと～

タケノコ出荷再開に向けて ～竹林除染の効果の検証～

東北支所 齋藤 智之

タケノコ出荷の現状と除染試験の方法

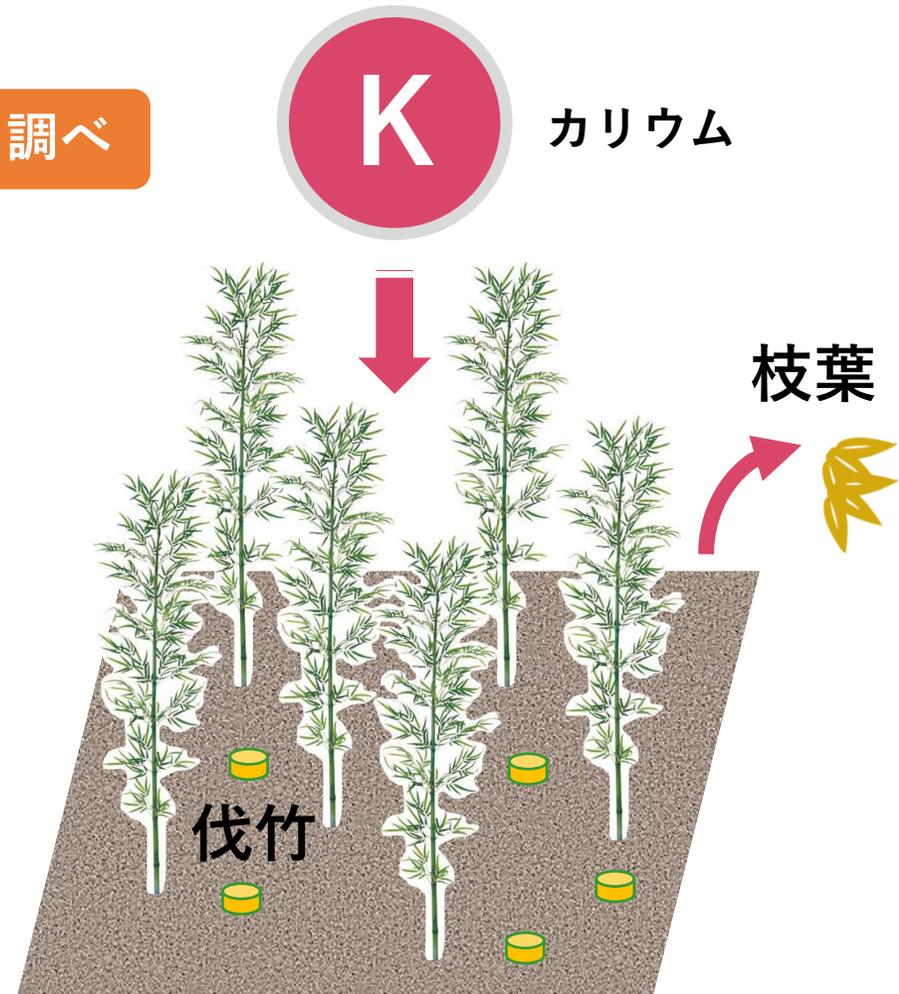
出荷制限の自治体数

2021年8月調べ

- タケノコ：5県38市町村

方法：除染試験

- ①カリウム散布
- ②落葉落枝の除去
- ③ 3000本／haに伐竹（間伐）
- 2014年2月に実施

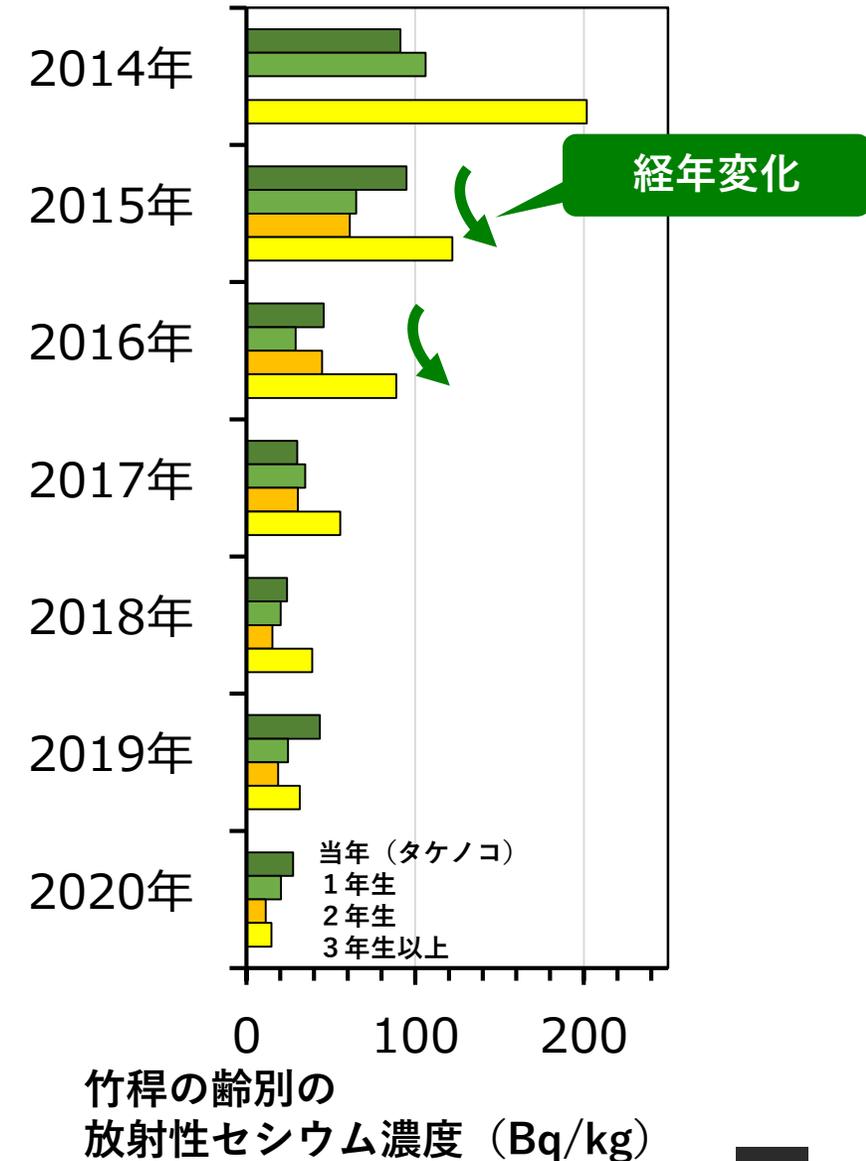


除染試験の方法

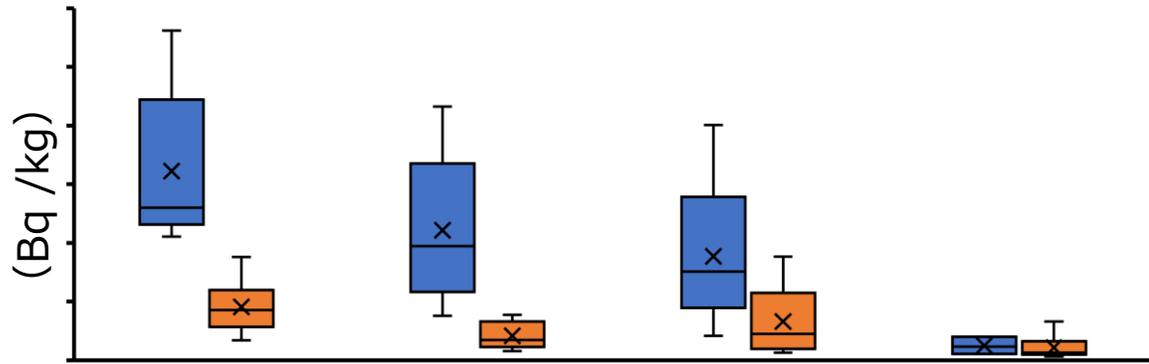
除染後の竹稈の齢別 放射性セシウム濃度の違い

タケ稈の放射性セシウム濃度

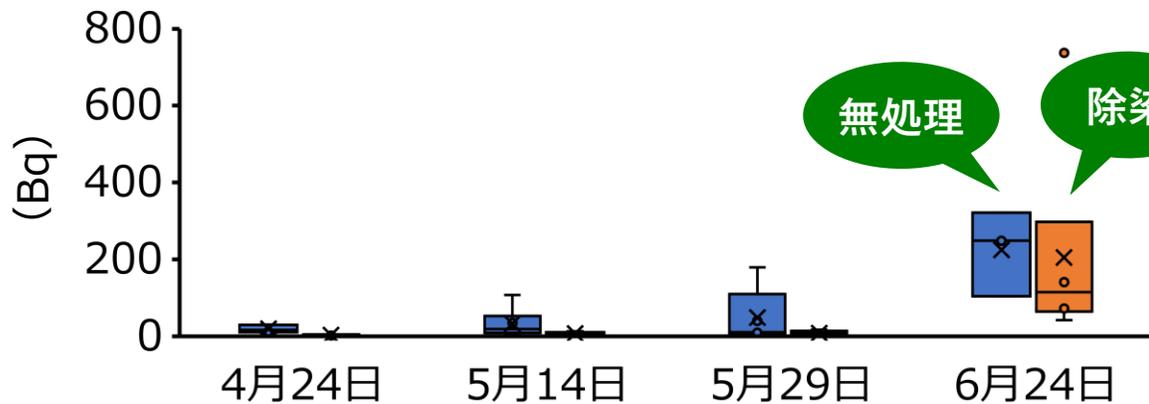
- 当年（タケノコから）の稈は比較的高濃度になる傾向
- 1年生、2年生の稈で低濃度になる傾向
- 高齢になると、稈内部に貯蓄されて、比較的高濃度になる傾向
- タケ植物体からの放射性セシウムの排出は落葉落枝によって起こる



発生期のタケノコの放射性セシウム濃度と量の変化



稈（タケノコ）の放射性セシウム濃度



稈（タケノコ）の放射性セシウム総量

同じ稈で見せ方を変えた二つのグラフ

- 4～6月にかけて、タケノコの放射性セシウム濃度は低下する
- タケノコの時期からタケに伸びる際、放射性セシウム総量は一気に増加する
- 成長時のタケは約90%が水のため、根から大量の水と放射性セシウムを吸収する



10年でわかったこと

- 竹林に除染を行えば、タケノコの放射性セシウム濃度は下がる

● タケノコの時期を過ぎて、根から大量の水と放射性セシウムを吸収する

● 試験の結果、除染の効果は数年後にでる

